

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】 専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数							非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計 (教授等の区分なし)	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数			
理学療法学科	人	人	人	人	6人	6人	6人	人	41人	19.1人
計	人	人	人	人	6人	6人	6人	人	41人	-

【自己評価 1-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域で教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎・ 専門)	指定規則 教育内容	担当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	医療倫理学	15	平塚 健太	兼任
		心理学	15	林 美都子	兼任
		コミュニケーション英語	15	濱田 貴文	専任
		臨床コミュニケーション学概論	15	林 美都子	兼任
		医療物理学	15	古館 裕大	兼任
		医療統計学	15	古館 裕大	兼任
		医療情報科学演習Ⅰ	8	外館 洸平	兼任
		医療情報科学演習Ⅱ	8	古館 裕大	兼任
専門基礎 分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学	30	成田 大一	兼任
		解剖学演習	15	成田 大一	兼任
		生理学	30	石田 裕二	専任
		生理学演習	15	石田 裕二	専任
		人間発達学	15	千葉 馨	専任
		運動学	30	羽澤 晃士	兼任
		運動学演習	15	羽澤 晃士	兼任
		臨床運動学演習	15	菊池 祐介	専任
		病態運動学演習	15	成田 大一	兼任
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学	8	檜木 広一	兼任
		内部障害学	15	石田 裕二	専任
				太田 知明	兼任
				尾崎 文武	兼任
				檜木 賢三	兼任
		田島 千鶴	兼任		
		神経障害学Ⅰ	15	石田 裕二	専任
		神経障害学Ⅱ	15	平塚 健太	兼任
		精神医学	15	佐藤 裕一	兼任
		老年期障害学	15	平塚 健太	兼任
				伊丸岡 知明	兼任
		運動器障害学	15	成田 大一	兼任
				平山 拓也	兼任
				覺田 尚人	兼任
石田 裕二	専任				
木村 中	兼任				
本田 進	兼任				
横山 寛子	兼任				

		薬理学	8	今島 昌三	兼任	
		救急医学	8	武山 佳洋	兼任	
		発達障害学	15	高橋 和俊	兼任	
		臨床心理学	15	諏訪 麻依子	兼任	
		脳神経科学	15	千葉 馨	専任	
		言語障害治療学	8	野村 昌邦	兼任	
		症例検討演習	15	平塚 健太	兼任	
				山田 竜大	専任	
				菊池 佑介	専任	
				溝部 和	専任	
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	8	横山 寛子	兼任	
		リハビリテーション医学	15	石田 裕二	専任	
		社会福祉学	8	八重樫 優	兼任	
		地域包括ケアシステム論	15	工藤 達也	兼任	
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	30	山田 竜大	専任	
		基礎作業療法学Ⅰ	30	山田 竜大	専任	
		基礎作業療法学Ⅱ	30	山田 竜大	専任	
	作業療法評価学	作業療法評価学演習Ⅰ	30	菊池 佑介	専任	
		作業療法評価学演習Ⅱ	30	菊池 佑介	専任	
		作業療法評価学演習Ⅲ	30	菊池 佑介	専任	
	作業療法治療学	作業療法研究法	15	千葉 馨	専任	
		運動器障害作業療法治療学	15	菊池 佑介	専任	
		運動器障害作業療法治療学演習	15	大井 雅人	兼任	
		神経障害作業療法治療学	15	石田 裕二	専任	
		神経障害作業療法治療学演習	15	石田 裕二	専任	
		内部障害作業療法治療学	15	石田 裕二	専任	
		内部障害作業療法治療学演習	15	大井 雅人	兼任	
		精神障害作業療法治療学Ⅰ	15	山田 竜大	専任	
		精神障害作業療法治療学Ⅱ	8	山田 竜大	専任	
		発達障害作業療法治療学	発達障害作業療法治療学演習	8	服部 範行	兼任
				野澤 綾子	兼任	
		老年期作業療法治療学	老年期作業療法治療学演習	15	服部 範行	兼任
				野澤 綾子	兼任	
				高橋 奈々子	兼任	
				山中 信	兼任	
				野坂 康博	兼任	
		補装具学	15	濱田 貴文	専任	
		補装具学演習	15	濱田 貴文	専任	
		日常生活活動学	15	千葉 馨	専任	
		日常生活活動学演習	15	千葉 馨	専任	

	高次脳機能障害学	15	千葉 馨	専任
	リハビリテーション工学演習	15	横山 寛子	兼任
			千葉 馨	兼任
			古館 裕大	兼任
	コミュニケーション方法論演習	15	平塚 健太	兼任
	作業療法学総論Ⅰ	15	山田 竜大	専任
	作業療法学総論Ⅱ	30	千葉 馨	専任
作業療法管理学	作業療法療法管理学Ⅰ	15	平塚 健太	兼任
	作業療法療法管理学Ⅱ	15	山田 竜大	兼任
地域作業療法学	地域作業療法学演習Ⅰ	15	大橋 悠介	兼任
	地域作業療法学演習Ⅱ	15	溝部 和	専任
	地域作業療法学演習Ⅲ	15	溝部 和	専任
	地域理学療法学演習Ⅳ	15	溝部 和	専任
臨床実習	臨床実習Ⅰ	40時間	千葉 馨	専任
	臨床実習Ⅱ	120時間	千葉 馨	専任
	臨床実習Ⅲ	360時間	千葉 馨	専任
	臨床実習Ⅳ	361時間	千葉 馨	専任

【自己評価 2-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習（実習Ⅰ）	1年後期	作業療法概論	1年前期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成施設指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成施設指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な臨床実習指導者の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な臨床実習指導者の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制があるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制を記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検・自己評価委員会
委員名（委員長）	大原 正範
組織の開催頻度	年1回
組織の取り組み内容	・本学院の教育理念・目的との関連において、学院経営・管理及び教育活動、研究活動等を点検し、自らの課題及び改善すべき点を明らかにするとともに、改善に向けて努力し、本学院における教育水準の向上を図る。
自己点検・評価結果の公表	本学院ホームページ

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

	名称	シラバス検討会
	委員構成等	副学院長、学科長、各科教員等
	改善の仕組みの実際	毎年度末にシラバス作成の更改等について検討する

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>・自己点検・自己評価の結果として、講義内容、臨床実習等は、指定規則・ガイドラインに基づき運用されていると考えている。</p> <p>・コロナ禍ではあったが、学外実習も実施でき、教育の質を下げずに、学生の教育を継続して行うことができた。一方で、初の卒業生が臨んだ国家試験の合格率は全国平均レベルであったが、今年度は、既卒生の対応も含めて、受験対策指導を強化していく。</p> <p>・今後においても、適正な学校運営、効果的な教育活動を実践するため、学科内はもとより両学科の教職員間で情報共有を図りながら、問題点があれば早期に見直しをするなど改善に努めていきたい。</p> <p>・なお、今年度は、リハビリテーション教育評価機構の教育評価の受審することになっている。</p>
--